「戦争の塔」を「平和の塔」に

「平和の塔」の史実を考える会
会員　児　玉　武　夫

1.　八紘一宇の塔

日本は日清・日露戦争からアジア太平洋戦争までの60年間、中国、韓国・朝鮮に侵略を繰り返した。その加害の跡が今も中国・朝鮮・東南アジアの各地に遺っている。日本国民も空襲や原爆投下、沖縄で戦禍を受け、戦跡が全国各地や旧植民地に残されている。また対外戦争を鼓吹した「戦争碑」や「戦争遺跡」は全国に十数万を超えると推定される。

八紘一宇の塔（正面）

宮崎県には「八紘之基柱(あめつちのもとはしら)」、通称「八紘一宇」と呼ぶ高さ36.4メートルの塔、他に高さ12メートルの「皇軍発祥の碑」、「海軍発祥の碑」の三つの大きな石碑がある。その3基とも神話の初代神武天皇即位2600年を記念し、その奉祝記念事業として1940(昭和15)年に建設された。それは皇紀2600年を祝い、国民の精神統合と強化策の一環でもあった。この神武即位を紀元元年としたのは明治維新政府が国民国家形成に、天皇を国民統合の軸として権威づけるためで、歴史や伝承を改変、歪曲した神話伝説をもとにつくられ「皇紀元年」ともされた。そして天皇の祖先とされている天照大神の神勅と神武天皇の詔「八紘ヲ掩ヒテ宇ト為サン(八紘為宇)」という高度な政治神話と神道式天皇祭祀の「国家神道」によって天皇の権威を押し広げたのである。この神武天皇神話・「国家神道」は明治以降の海外膨張主義を神聖視させ、1930年代後半に「八紘一宇」に造語し、アジア侵略・「大東亜共栄圏」は「神武神勅」の実現、「聖戦」であると国民に浸透させたのである。

「八紘一宇の塔」に国内外(大東亜圏)から1789個の石を運び、八角形の古代中国皇帝方式を導入、「神国」日本を象徴する「御幣(神器)」の形を表し、正面欄間には皇位継承の「三種の神器」の透かし彫りがある。塔内部を厳室(いつむろ)といい、正面に神殿を設け、秩父宮直筆「八紘一宇」を塔の魂として安置、八面の壁には「天孫降臨」「神武天皇即位」「明治天皇東京遷都」、「大東亜共栄圏」などを描いた8枚のレリーフを飾り、天皇神格化、崇拝を浸透させる塔とし建てたのである。

2.　まやかしの「平和の塔」

敗戦直後の12月15日、「八紘一宇」の大文字と「武人像」は占領軍の「神道禁止令」

で削除された。その「神道禁止令」が天皇を「現人神」とする国家神道や「祭政一致」、「政教分離」と忠君愛国の超国家主義を終局させ、現憲法の「政教分離原則」となった。また公文書での「大東亜戦争」や「八紘一宇」の用語使用も禁止された。

敗戦から10年を経て戦後復興がすすむと「戦後は終わった」と言いだし、20年を経た1965年には「八紘一宇」は「世界が一家のように仲良くという意味」といい復元された。「八紘一宇」の復元、「神武・紀元」を復活させる「建国記念の日」などを次々と制定し、侵略戦争の正当化を公然と主張しだした。今日の自衛隊のイラク戦争参加、アジア侵略を解放戦争とする歴史教科書の使用を決定するまでにいたった。

だが、こうした歴史修正は、1940年9月の日独伊三国同盟締結の昭和天皇詔勅「大義ヲ八紘ニ宣揚シ坤与(大地)ヲ一宇(一つの家)タラシムルハ皇祖皇宗の大訓」として、「八紘一宇」を日本の対外膨張主義の原理としていた歴史を隠滅することはできない。

3. 掠奪文化財石一石の証言

「八紘一宇の塔」は忠霊塔とは異なり、礼拝碑でも凱旋記念碑でもなく、語り継ぐ主題はない。神武天皇の「八紘為宇」、皇紀2600年、万世一系の天皇と最優秀民族を誇った政治神話、軍国主義、聖戦を語るしかない。観光ガイドは塔を見上げながら「八紘一宇は神武天皇の詔、平和を願う言葉である」と解説したあと、つづいて「世界各国の友好諸国から多くの石は寄せられた」と案内していた。が、市民の批判によって訂正された。

南京明故宮「麒麟彫刻の石」

この塔は日本人だけのものでない。世界各地から運ばれてきた「石」があり、それらの国の人々の忘れ難い戦争の痛みが刻まれている。1789個の内の1417個は国内、海外からは372個が運ばれてきている。海外の372個は中国から238個、朝鮮・韓国が123個、樺太(ロシア)1個、パラオ(南洋庁)1個で合計363個、97.5%の石は日本軍占領地、或は植民地からである。残りの「世界各国」とはカナダ3個、アメリカ2個、ペルー、フィリピン、シンガポール、ドイツが各1個、計9個である(三国同盟のイタリアの石はない)。「世界各国、友好諸国」は虚偽、誇大広告であり、「八紘一宇の塔」は大東亜共栄圏、日本の侵略の象徴だったことを今も石は証言している。

「公園由来碑」には「当時、世界各地に在住した日本人団体及び友好諸国から寄せられた」と記されている。当時友好諸国はドイツ一国のみ。他に国名が刻まれいる石は「満州国」の56個、北京特別市、中華民国江蘇省の2個。だが、それは日本軍の擁立支配下の傀儡政府の名である。中国の238個の内80個は日本軍部隊が占領地から戦利品として奪って運んでいる。その中には、明故宮の国宝級「麒麟彫刻の石」、「万里長城の石」「科挙秀

才資格者墓石」「泰山山頂玉垣の石」「上海政府庁舎門の石」「武漢黄鶴楼」「蒲忻城壁」「南京中山陵」の石など多くの名所旧跡を破壊して掠奪してきている。

上海市政府庁舎アーチ門最上部の花崗岩石
（日本軍が壊し、運んだ）

それも日本軍と宮崎県による組織的な文化財破壊と掠奪であった。宮崎県知事が板垣征四郎陸軍大臣に中国占領地の最前線から「八紘一宇の塔」に献石を要請、板垣陸軍大臣が中国派遣軍の各部隊に命令して組織的に送らせた。その板垣陸相の「命令書」は永久保存と押印されて今も防衛庁金庫に保管されている。

中国以外の日本植民地から運ばれた「切石」は日本軍が直接奪ったものではないが、その背景は日本軍の威圧であった。植民地に在住した日本人団体名を刻み、植民地支配の歴史を今も物語っている

4. 国際法規と戦後の処理

日本は日清戦争以降の戦争でアジア諸国の3,000万の人びとを殺傷しただけでなく、多くの文化財を破壊し奪った。「八紘一宇の塔」の石だけではない。文化財の掠奪は、領土や人命の殺傷と比べると些細にみえるかもしれない。だが、それは他民族の生命、財産掠奪の主要な構成部分である。人間の拉致・強制連行、図書、宝物などの掠奪は紙福が足りないので「八紘一宇の塔」の石・文化財の掠奪のみ述べる。

「八紘一宇の塔」は戦争勝利、「領土拡大」、神国思想誘導の塔であった。文化財・石の掠奪はその「国威発揚」を競争させた。だが、それは「国威」を傷つけることはあっても、「発揚」することはありえない。「国際平和」を議題にした2000年の宮崎サミット外相会議参加の各国外相・関係者を「平和台公園」「平和の塔」に案内することはできなかった。翌年の中国人民代表大会代表の宮崎来訪でも同じだった。

歴史を改竄、真実を隠蔽した「平和の塔」は国際社会に認められないだけでなく、日本への信頼を失わせるだけである。ハーグ条約第4条を批准して公布された「陸戦法規規則」(明治45年1月)第46条は「略…私有財産ハ之ヲ没収スルコトヲ得ズ」、第47条は「掠奪ハ之ヲ厳禁ス」と、禁止している。陸軍刑法(明治41年4月)86条には「占領地ニ於テ住民ノ財物ヲ掠奪シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ処ス」とある。

連合軍総司令部(GHQ)の掠奪品定義は「昭和12年7月7日以降日本軍の占領地域に於いて、武力を背景にして獲得したものは、譲渡されたものでも「掠奪品」と規定している。中国大陸から運ばれた文化財・石はすべて掠奪品であった。戦後処理、掠奪物返還のGHQ覚書(1946年4月19日付)は、現在日本にある全ての戦利品と確認せらるる財産目録を提出し、且つこれをただちに押収すべしと日本政府に命じている。その「掠奪物目録」を宮崎県は作成し、提出したか否かの記録はない。だが、運ばれた石には送った日本軍と団体名が刻まれ文書記録も残されていた。資料の提出は即座に可能だった筈だが、なぜ返

還されなかったのか。政府報告書には「大は工場から船舶、小は銅貨、ボタンにいたる、山積する掠奪品が報告され政府も唖然とした」とある。「八紘一宇の塔」の文化財・石のみが戦後返還されなかったのは「国体護持」のためだったのか、「文化財・石」を略奪品と理解できない人権感覚の無さだったのか。

5.　敗戦遺産を継承する平和の塔に

「八紘一宇」は天皇のためという思想で国民を国家に一元化し、滅私奉公、忠君愛国思想のもと、非人道的な行為を正当化する意識を持った人間をつくりだした。もう一つは日本が占領支配した地区から石を運び、日本国民だけでなく、日本が占領している地域の人びとをすべて天皇の下に屈服させようとしたのである。

歴史の事実を歪曲し、無視した「八紘一宇の塔」に向かい合うとき、何を考えさせるだろうか。そして何が生まれるだろうか。加害者であることを認め謝罪しないなら、戦争の犠牲者に犠牲を強いつづけることになる。それは戦前の天皇中心の国家主義を認め、戦前を遮断した「平和の塔」にはならない。

塔の背面、「紀元二千六百年」の下に領土拡張目標を示す「国勢記」が刻まれいたが、削徐した痕がそのまま見える。

「八紘一宇の塔」を「平和の塔」と名付けて保存するのは、二度とこのような過ちを繰り返さないためでなければならい。そのためには戦争の事実、戦争の悲惨さ、戦争の非人間性を語り伝えることが原点である。「八紘一宇の塔」は日本では数少ない加害の現場、被害者の痛みを知る現場でもある。広島・長崎の原爆被災地に行く前に、この「八紘一宇の塔」を見てほしい。

群馬県太田市には「平和の塔」が建てられている。その石碑には「一人ひとりが心を尽くして互いに生命と人権を尊重し、悲惨な戦渦を再び繰り返すことなく、最愛な郷土に永遠の平和が達成されることを願って建てられた。」と刻まれている。太田市の「平和の塔」と宮崎の「八紘一宇の平和の塔」に向かい合った時、人の心に響くものは同じだろうか。真実を記し、アジアの人びとと心の通い合う「平和の塔」にしよう。それが「敗戦の遺産」「加害の塔」を真の「平和の塔」にかえることになる。

2004年8月15日　　以　上